

令和5年度

1 級建築施工管理技術検定 第二次検定

解 答 試 案

※ご注意※

- ・本解答は令和5年10月23日にCIC日本建設情報センターが独自に制作・編集したもので、予告なく変更する場合がございます。また、CIC日本建設情報センターが独自の見解に基づき制作したもので、試験結果等について保証するものではありません。
- ・解答試案の内容及び正当性に関するお問い合わせは受け付けておりませんので、悪しからずご了承ください。
- ・試験実施機関の(一財)建設業振興基金とは一切関係ございません。

CIC 日本建設情報センター
Construction Information Center

建設業特化 教育&研修ソリューション

<https://www.cic-ct.co.jp/>

不許複製

必須問題

問題 1

※施工経験記述問題のため、解答例は省略します。

問題 2

建築工事における次の仮設物の設置を計画するに当たり、留意すべき事項及び検討すべき事項を、それぞれ 2 つ具体的に記述する。ただし、解答はそれぞれ異なる内容の記述とし、申請手続、届出及び運用管理に関する記述は除くものとする。また、使用資機材に不良品はないものとする。

下記以外にも正答となり得る留意すべき事項はあるが、本試案では代表例を提示する。

1. くさび緊結式 足場	(1)	壁つなぎの間隔は、垂直方向 5 m 以下、水平方向 5.5m 以下とする。
	(2)	建地の間隔は、桁行方向 1.85m 以下、梁間方向 1.5m 以下とする。
2. 建設用リフト	(1)	建設用リフトの運転者を、搬器を上げたままで運転位置から離れさせない。
	(2)	建設用リフトを用いて作業を行うときは、建設用リフトの運転について一定の合図を定め、合図を行う者を指名して、その者に合図を行わせる。
3. 場内仮設道路	(1)	地盤改良や鉄板敷きを行って、必要な地盤耐力を確保する。
	(2)	作業員の通行動線と車両動線は近い位置に設けない。

問題 3

1	型枠工事の作業④の作業内容	梁型枠組立て
	鉄筋工事の作業⑦の作業内容	柱配筋(圧接共)
2	型枠工事の③の最早開始時期(EST)	5 日
3	型枠工事の⑥のフリーフロート	5 日
	鉄筋工事の⑩のフリーフロート	0 日
4	総所要日数	24 日

問題 4

次の各問いの施工上の留意事項を2つ、具体的に記述する。ただし、解答はそれぞれ異なる内容の記述とし、材料(仕様、品質、運搬、保管等)、作業環境(騒音、振動、気象条件等)、養生及び安全に関する記述は除くものとする。

下記以外にも正答となり得る留意事項はあるが、本試案では代表例を提示する。

1. 山留め壁への 鋼製切梁工法 の支保工設置	(1)	腹起しは、山留め壁との間にすき間ができないように設置する。
	(2)	盤圧計は、切梁と火打材との交点付近等、腹起しから近い位置に設置する。
2. バーサポート 又はスペーサー の設置	(1)	バーサポートは鋼製とし、上部に設置される鉄筋の重圧に対して変形せず、適正なかぶり厚さを確保できるものを使用する。
	(2)	スペーサーには鋼製やプラスチック製のものがあるが、鋼製のスペーサーを使用する場合には、型枠に接する部分に防錆処理を行う。
3. 床型枠用鋼製 デッキプレート (フラットデッキ プレート)の設置	(1)	縦さん木を設置し、かつフラットデッキ端部を所定の間隔で釘止め等を行い、フラットデッキ支持部の固定度の確保に留意する。
	(2)	フラットデッキを載せる梁・壁型枠においては、型枠の開きや傾倒および倒壊防止のための水平つなぎや筋交い等の措置を行うよう注意する。
4. 普通コンクリ ートの密実な 打ち込み	(1)	コンクリートの自由落下高さ及び水平流動距離は、コンクリートが分離しない範囲とする。
	(2)	締固めに使用する棒形振動機は、打込み各層ごとに用い、その下層に振動機の先端が入るように、ほぼ垂直に挿入する。

問題 5

各記述において、 に当てはまる最も適当な語句又は数値の組合せを、枠内から 1 つ選ぶ。

	最も適当な語句又は数値の組合せ		最も適当な語句又は数値の組合せ
1	④	5	④
2	③	6	⑤
3	③	7	③
4	②	8	①

問題 6

各法文において、 に当てはまる正しい語句を、枠内から 1 つ選ぶ。

1. 建設業法	①	③
	②	①
2. 建築基準法施行令	③	③
	④	①
3. 労働安全衛生法	⑤	⑤
	⑥	④